



サニーレイニー

30歳になる頃、私は海外へひとり旅をするようになった。それまで仕事で海外へ行くことはたくさんあったけれど、どこへ行くにもただ連れて行かれるままだったから、英語を使う機会というのはあまり無かった。一方、プライベートでのひとり旅は、何から何まで完全なる自由。しかし、初めて訪れる異国を自力で旅するには、英語でのコミュニケーションが必要な場面も多多あった。

ひとりでいると現地の人に話しかけられることも多いから、「旅行でよく使うフレーズ」だけでは乗り切れない。豊富とはいえない私のボキャブラリーの中から、なるべく簡単な言い回しを選んで意思疎通を図るのも、旅の楽しみのひとつだった。

ギリシャのサントリーニ島で、現地のガイドさんに、絶景スポットを案内してもらったときのこと。空には太陽が顔を出しているのに、ポツポツと雨が降りはじめた。

「サニーレイニー」と、そのガイドさんが呟いた。

お天気雨は好きだ。子供の頃から、なんだか楽しい気持ちになってしまう。

私はどうしても「日本ではお天気雨を『狐の嫁入り』と言うんだよ」とガイドさんに伝えたくて、英語で「狐の嫁入り」を説明してみることにした。嫁入りという日本独特の言葉をどう表現していいかわからないので「日本の迷信をひとつ教えてあげる。狐が結婚するとお天気雨が降るんだよ」と、ざっくり伝えてみる。すると、ガイドさんは「フォックス?! ホワイ?!」と大ウケ。

狐が人を化かす感じとか、嫁入り行列のこととか細かいニュアンスは伝わっていないけど、間違ってもいいから、まあいいだろう。できれば、こういう経験を学生時代にしておきたかったなと思う。べつに正確でなくても、コミュニケーションが取れたら英語は楽しい。

旅の良い思い出は、ほとんどが「人とのふれあい」だ。これからの旅でも、そんな瞬間がたくさんあればいい。



眞鍋かをり

まなべ・かをり

タレント。1980年、愛媛県生まれ。横浜国立大学卒業。大学在学中からタレント活動を始める。テレビのバラエティ番組に加え、ニュース番組のコメンテーターやMC、執筆など幅広く活動。海外一人旅が趣味で、旅の魅力をさまざまなメディアで発信している。著書に、2013年『世界をひとりで歩いてみた』、2015年『眞鍋かをりの世界ひとり旅手帖』(ともに祥伝社)など。